

ホウレンソウ

ホウレンソウには、葉の切れ込みが深くアクが少ない「東洋種」。葉の切れ込みがなく丸みを帯び、葉に厚みがある「西洋種」がありますが、現在はそれぞれの長所を併せ持つ「交配種」が主流です。



作型

高温ほどとう立ちするので、種まきの時期を選ぶ。酸性土壌を嫌うので、石灰を必ず施用する。適期に間引くと、根張りが良くなり大株となる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき									○	○	■	■	強力オーライ、メガトン、ソロモン、パレード

○：種まき ■：収穫

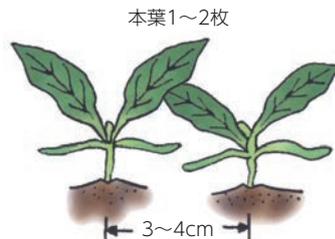
畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ（有機石灰）	20kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- ・4条まき：畝幅120cm
- ・幅15cm、深さ2～3cmのまき溝を作り、播種後はたっぷりと灌水する。
- ・覆土後、軽く鎮圧する。（ネーキッド種子を利用する場合）
- ・播種間隔2～3cm。（厚まきしない）

間引き・追肥

- ・本葉1～2枚時：3～4cm間隔に間引く。
- ・本葉3～4枚時：株間5～6cm間隔に間引き、野菜専用肥料5kg/aを施用する。



トンネル被覆

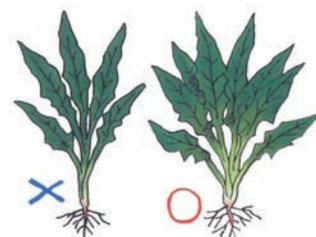
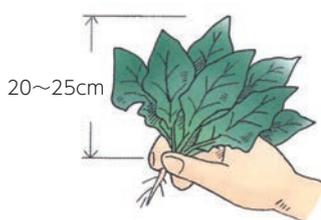
- ・12月以降は防寒と品質向上のためビニールトンネル被覆により保温を行う。

防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
根腐病	連作を避け、排水をよくする	
苗立枯病	連作を避け、排水をよくする	
アブラムシ	窒素肥料を多量に散布しない 防虫シートを使用する	スミチオン乳剤 1,000～2,000倍 21日前まで 2回以内

収穫

- ・草丈15cm以上、本葉6～8枚になれば収穫する。
- ・大きくなった株から間引きするように収穫する。
- ・秋まき：50日～60日



高菜

高菜には、葉の色が緑の「青高菜」や、葉に紫色が入った「紫高菜」などいくつかの品種があります。カラシナの一種とされ、葉が大きく多肉性で切れ込みが少ないものが高菜と呼ばれるようになりました。



作型 耐寒性が強く、生育日数も短く、畑があいている期間に収穫できる。
種まき、覆土は丁寧に。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 植 え	■	■	■	■					○	○			大葉タカナ、葉カラシ菜、黄カラシ菜

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ（有機石灰）	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元 肥 a当たり	
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

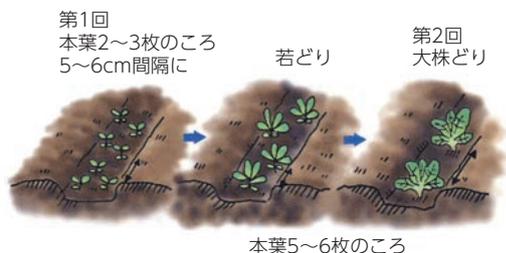
- ・発酵鶏糞30kgを畝の中心（芯肥）に施用して畝をつくる。（10cm以上の間土を入れる）
- ・畝幅60～80cm

種まき

- ・まき溝いっばいに種をまく。（2～3cm間隔に種をまく）
- ・種が小さいので厚まきにならないように。
- ・覆土は5mm位にして、くわで鎮圧する。
- ・切りわらをして、覆土が乾燥しないようにする。

間引き

- ・第1回 本葉2～3枚の頃 5～6cmの間隔に。
- ・第2回 本葉5～6枚の頃 10～20cmの間隔に。（若どりする場合10cm 大株どり20cm）



本葉5～6枚のころ

追肥・中耕

- ・第1回間引き後畝肩を中耕（けずり）、油粕10kg/aを施し、土寄せする。
- ・第2回間引き後中耕、土寄せを行い、生育の悪い場合は野菜専用肥料5kg/a施用し土寄せする。



第2回 草丈10～12cmのころ

防 除

病虫害名	耕 種 防 除	薬 剤 防 除
ア オ ム シ コ ナ ガ	施設では開口部に寒冷紗を張る。 露地では害虫の侵入を防ぐため、寒冷紗などを用いる。	
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る。 施設では開口部に寒冷紗を張る。 露地では害虫の侵入を防ぐため、寒冷紗などを用いる。	スカウト乳剤 1,500倍 7日前 2回

収 穫

- ・草丈20cm以上で収穫できる。
- ・春収穫のものは、25～30cm位の大きいものが風味に富む。（とうが出はじめたら全部収穫する）